



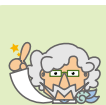
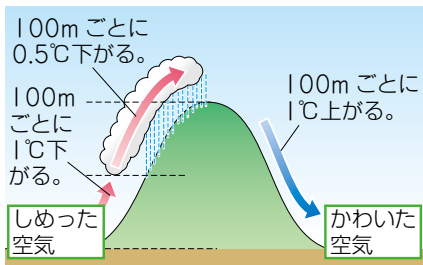
# フェーン現象



フェーン現象は、しめった空気が山の斜面にぶつかって上昇し、雲が発生して雨を降らせたのち、反対側の斜面を下降したときに、(14)現象です。

しめった空気が斜面を上昇するとき、はじめは100m高くなるごとに温度が1℃ずつ下がりますが、雲ができ始めると100m高くなるごとに(15)ずつしか下がりません。一方、反対の斜面を下降するときには、空気がかわいているため雲ができず、100m低くなるごとに(16)ずつ温度が上がります。このため、フェーン現象が起こります。

(17)がふくと、フェーン現象が起こりやすくなります。



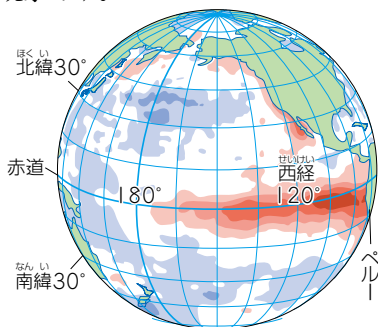
入試では、フェーン現象という名前を答えさせる問題が出題されるほか、計算問題としてもよく出題されるのだ。空気は、上昇すると温度が下がり、下降すると温度が上がることで、雲があるかどうかによって温度の変わり方が異なることを、しっかりおさえておくとよいのである。

# エルニーニョ現象



エルニーニョ現象は、太平洋上の赤道域の中央部から南米のペルーにかけての広い範囲で、(18)状態が1年ほど続く現象です。

エルニーニョ現象が起きた年は、日本では、夏は気温が低い日が続く(19)となり、冬はあたたかい日が続く(20)になるといわれています。



海面の水温の基準値(1961~1990年の30年の平均)との差(℃)

## +プラスワゴン

エルニーニョ現象とは逆に、同じ海で海面水温が平年に比べて低い状態が続く現象を「ラニーニャ現象」といいます。ラニーニャ現象が起きた年は、日本では夏は気温が高く、冬は気温が低い日が続くことが多くなるといわれています。